

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 総 評 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

山田 修平 審査委員長 (鳥取看護大学・鳥取短期大学 理事長)

8月18日-19日、大山山麓のホテルでユースフォーラムが開催された。「夢について」論文を書き、中国四国各地域の予選を経、45名の女子高校生が集った。

論文を軸に、2分間の自己紹介、6-7名を1グループとした討議とその報告が主なプログラムである。

幾つかのルールを設けた。自己紹介は2分を厳守すること。氏名、フォーラムへの志望動機という内容に加え、故郷や感動したこと等の選択肢を示し、織り込むことを求めた。当初硬くなる場面もあったが、若干時間の余裕があり、希望者に補足の機会を与えた。次々と手が上がり、澁刺とした自己アピールとなった。

グループ討議は、初対面同士が7グループに分かれ、全員が司会、記録等という役割分担をすること、討議時間は2時間とした。夫々の夢から始まり、夢の実現のために必要なこと、課題等、こちらが設定した柱を15分刻みで話し合う形式をとった。活発な討議、内容の深化が感じられた。悩みを訴えるメンバーに対して、共に考え、助言する光景も見られた。今回、約200名のオーブザーバーの方は、グループ討議は見学できないこととした。高校生に本音を語り合って欲しいという意図からだ。

そして、夕食後90分と区切って、グループ討議のまとめと翌日の報告会の準備の時間を設けた。打ち解けた中に、納得いく報告をしたいと熱気に溢れていた。自ずとリーダーやサポート役が出来ていた。

2日目のグループ報告は発表時間12分と区切った。準備段階では案じていたグループもあったが、各グループ共よくまとまった報告であった。また寸劇を織り込んだパフォーマンスもあり、楽しい報告会となった。

論文、自己紹介、討議、その報告等の充実度、アピール度、協調性等の基準で、幾つかの賞を決めたが、45名全員と7つのグループ全てに賞を授与したかったというのが本音だ。

参加した全ての高校生は、紛れもなく「青春の記念碑」という賞を得、そして夢への確実なステップを刻んだに違いない。全員に「おめでとう」と言いたい。関わった私達「大人」も、若者たちの夢や希望の清々しい香りにリフレッシュした。心より感謝したい。